

変でした。論文としての材料が揃っていても、章立ての構成や平易でわかりやすい表現で書くという基本的なことが不得手な私は、上司かつ共著者である生頼常務・上田部長の粘り強いご指導がなければ、論文として仕上がらなかったと思います。改めて、深く感謝いたします。

今後、凍着面温度や土質など地盤凍結工法にとって重要な因子の影響を把握し、凍着維持の安全性を定量的に評価することができる凍着設計手法の確立に努めていきたいと思います。また、今回受賞したことに慢心せず、真摯に研究に取り組んで参りたいと思います。

## 功績賞を受賞して

富山大学客員教授 対馬 勝年



このたび、東京で行われた雪氷研究大会において日本雪氷学会功績賞の栄に浴し、ありがたく存じております。雪氷の現象や課題、学会の将来について語り合った先輩、学友の皆様、選考委員の皆様にお礼申し上げます。

受賞対象は雪氷の摩擦や利雪の研究、教育、学会運営への功績ということです。私は昭和55年に富山大雪氷学講座の初代助教授となりました。学術雑誌に恵まれ、研究に没頭できた低温研から教育職への大転換でした。大学の学部では全国初の雪氷学講座での教育でしたから、手探りの授業内容構成でした。低温研で受けた吉田順五先生や黒岩大助先生の講義ノートや雑誌会のメモ、東晃先生の教科書、前野紀一先生の教科書、名著「氷の科学」、若浜五郎先生の著書などを参考にしました。また集中講義に依頼した先生方の講義が大変助けになりました。一方、研究面では外的刺激が激減し、過去の遺産で教育、研究に取り組むようになりました。

転任最初の冬に56豪雪に遭遇し、富山県を初め、豪雪地自治体は雪対策に猛進しました。県に協力し、県は雪対策を大々的に展開し、雪氷研究に継続的支援を受けました。追い風からの門出は幸運でした。富大の教室を利用して雪の勉強会を開始し、石坂雅昭会員や県内の雪に関心をもつ人たちと雪氷学講座との絆を強めていきました。

中川正之初代教授のお手伝いで、高速雪崩研究フィールドの黒部峡谷志合谷を何度か訪れました。その折、林立する巨大単結晶氷筍に巡り会う幸運に恵まれました。1998年の長野オリンピックでは日本スケート連盟の選手強化に協力する機会を得て、エムウェーブの氷が鉛直に細長い柱状氷であることを知りました。富山県に200万kWの水力発電所をもつ関西電力(株)による氷筍リンク実現への支援は全くの夢のような幸運でした。いくつもの幸運が重なって氷筍リンクが実現したこと、氷筍リンクを通して多くの人に雪氷学の可能性と希望を与えたことを喜んでます。

利雪は富山大への転任話があったころから暖め続けた構想でした。熱サイホン式雪発電は世界初の発電方式と思いますが、効率の良い発電ではありません。でも、自分は雪の価値を引き出すために雪発電にこだわり続けました。また私は「利雪」＝「雪氷の理工学技術の産業への応用」と位置づけ、様々な利雪技術にアンテナを張りました。

低温研でメンデンホール氷河産の良質の単結晶氷を摩擦研究に使わせて頂けたこと、富山での氷筍との出会い、日本スケート連盟や関電の支援など本当にラッキーな研究者でした。

教育には最も多くの時間を捧げました。授業には雪氷物理学、積雪物理学、応用雪氷学、雲物理学、雪氷学実験法、雪氷学概論など手作りテキスト

トを用いました。29 年間に会った 245 名の雪氷学卒論生にも多くの思い出があります。

昭和 60 年の大会は中川先生を委員長に、富山県や北陸電力などから絶大な支援を受け盛大に行われました。また平成 19 年の雪氷研究大会は川田邦夫教授を委員長、島田互准教授等のご尽力により富山大学で開催されました。小林俊一先生から引き継いだ 1995/96 雪氷編集長の折りに、現行

の「雪氷」隔月発行を実現したのは法人化へ向けて機関誌の充実として歓迎されたようです。編集では産業界の雪氷問題へ光を当てました。

おわりに 41 年間終始励ましを受けた学会員の皆様に心から感謝します。現在は富山大客員教授ですが、雪氷学のまとめや、やりかけの研究をもう少し続け、お世話になった方々、学界へのご恩返しをできたらと願っています。